

A・P・Sプロジェクトに参加して

社会福祉法人愛和会 岡部 友規子

平成30年5月29日より、介護の技能実習生の講師としてベトナムに行かせていただきましたので1ヶ月の報告をさせていただきます。

#### 【プロジェクト参加に至るまで】

昨年の11月頃、坪統括部長より大阪A・P・Sコンソーシアム1ヶ月派遣講師の話をしていただきました。私は昔から旅行が趣味で海外には行っていたため興味がありましたが、話をいただく直前に母が緊急入院をしたこと、また、アルツハイマー型認知症の診断を受け、2人暮らしであるため母を残しての1ヶ月は正直難しいと思いましたが、政府が絡んだこのような大きなプロジェクトで、愛仁会の介護代表として第一陣で行ってほしいと直々にお伝えいただき、母の対応については近隣の方にお世話になることにしてベトナムに行くことを決意しました。

#### 【プロジェクト始動】

12月に介護スキルラボチームが結成され、愛仁会、ペガサス、生長会の3法人の中で、介護のスペシャリスト達が召集されました。最初は「それぞれの法人で持っているマニュアルなど、手の内を全てオープンにせず様子を見ながら進めて行くのかな・・・」と聞いていたのですが、他の法人のメンバーはとても気さくで、すぐに打ち解け、まだ見ぬベトナムの学生達にどうすればベトナムにはない「介護」を理解してもらえるのか？という思いで会議を重ねました。外国人が日本語を理解できるような本の選定、学生達が入国後に負担にならないよう研修を短縮できるようなカリキュラム、誰もが共通理解をして、講義ができるようなシラバス、少しでも理解できるような介護のテストをそれぞれの法人担当者が40回以上もチームズでアップし、最初は月に1度であった会議も出発前には毎週集まって試行錯誤しながら少しずつ前に進めてきました。

#### 【開校式について】

渡越後は生活班、開校式班に分かれて準備を行いました。特に開校式班については、日本では感じたことのない湿度の中での作業だったため、熱中症予備軍の方がいたそうです。不安を持ちながらの訪越でしたが、ホアンロン学校に到着すると学生達はとても明るく、礼儀正しく私たちを出迎えてくれました。開校式ではベトナム政府関係者の来賓もあり、日本からは代表として南先生から、A・P・Sや現地の学生に期待することなどを挨拶されました。式典の中で学生達の歌の披露があったのですが、感無量となり涙が溢れて止まりませんでした。「よくここまで頑張ってきたね」と、白紙状態から始まったスキルラボの完成を実感し、他法人のメンバーと喜びを分かち合うことができました。開校式後のパーティーも、コミュニケーションを図りながら大阪のイメージが沸くようなものを考え、たこ

焼きに決定しました。日本から必要物品や食材を準備してもらいましたが、その器材等が飛行機搭乗の際に引っかかったため長尾部長が呼び出されるアクシデントがありましたが、無事にベトナムへ運ぶことができました。学生達の初めてとなるたこ焼きを、一緒に作り親御さん達にも振舞い大好評でした。

### 【介護スキルラボの開始】

私の担当する授業は「介護に関することば」全般だったのですが、残念ながら学生の語学力は予想を下回っていました。しかし、日本の学生のように下を向いて講師の話を聞いていない感じはなく、皆が手を挙げたり、分かる言葉は自ら手を挙げ発言し、分からない言葉についてもはっきり「先生、分かりません」と言ってくれたので授業はとてもしやすかったです。授業で苦勞した点は、やはり「言葉が通じない」ということでしたが、通訳の先生がいてくださる日もあり、不在の時は翻訳機を活用しながら、分からない言葉を易しい言葉に言い換え、それでも分からない時は更に噛み砕き、ジェスチャーをしながら伝えるなどして、生徒と笑いながら授業を進めました。

私はフートを除く2クラスを担当しており、クラスの日本語能力の差がかなりありましたが、理解力の低いクラスも徐々に慣れ、休憩時間も私によく話しかけてくれました。少しでも日本語を話したい、という思いが感じられ片言でも授業意外のコミュニケーションを図るには苦勞を感じませんでした。笑顔で授業を受けてくれていた学生達ですが、朝は6時頃に起床し夜は12時頃までこのクラス以外にも宿題やテスト勉強をしなければならないため、非常に大変だと思います。特に介護のクラスはコミュニケーションを重要視されるため、他の学科は土日が休みでも、介護のクラスは日曜日しか休みがありません。学生達はその大切な日曜日に私を遊びに誘ってくれ、旧市街地の歩行者天国で綿菓子やジュース、ゲームなど、小遣いなどほんのわずかしか持っていないであろうに、私にご馳走をしてくれました。家族の話や普段の過ごし方など、日本語でたくさん会話をし、学校の授業だけでは分からないベトナムで暮らす学生達の様子を知り、優しさを感じることができました。

### 【ベトナムの印象】

6月4日より本番の授業が開始だったのですが、開始早々驚いた出来事がありました。午後からの授業であったため学校に着くと、ちょうど昼休みの時間帯で、学生達は教室の電気を消し昼寝をしていました。「暑い国だから、皆昼寝をするんだなあ」と思いながら職員室に挨拶に行くと、中にいる先生方も昼寝をしておられました。日本では、休み時間と言えども、教員が昼寝をする様子を見ることはほとんどないため、とても驚きました。また数日後には、先生の内の一人在誕生日だったらしく、職員室に入った途端、大音量の音楽がかかっており誕生日ケーキを切る直前の場面に出くわしました。私を仲間に入れてくださり、色々なフルーツとケーキで私をもてなされた感じでしたが、これも職員室で教員が大音量の音楽をかけることに戸惑ったくらいです。その他、教室に行くにも一苦勞で、先

生が教室の鍵を毎回間違えており、授業開始前に校舎の階段を毎日上り下りしていました。また、授業が終了するとマンションまで送迎してもらえますのですが、これも毎回帰るところにドライバーがおられないため、探すことから始まり、校舎のあちこちを探して見当たらなければ職員室に伝えに戻るということを、ほとんど毎日していました。ある時は、先生から「ドライバーさんが体調不良なので、帰りのタクシーを呼びます。待っていてください」と言われ待機していたのですが、体調不良であろうドライバーさんと、先生が呼んだタクシーが同時に来るといったアクシデント？もありました。このような事は学校内だけではなく、生活の中で数え切れないくらい体験したため、日本人のように「失敗を繰り返さない」「きちんとした対応をしなければ」という感覚は、本当に希薄だと感じましたが、この国ではこれが当たり前であり、これが文化なので、それもチームズやフェイスブックに載せるネタとして楽しみながら日々を過ごしました。

#### 【まとめ】

このプロジェクト参加によって、少しの間でしたが異文化の中で生活することを理解できたように思います。生活すると言っても、住居は高級マンションを準備していただき、現地ではコーディネーターの坪さんもおられ、実際に不自由を感じることはほとんどありませんでした。学生達は若く、日本で暮らす期間は短くても3年であるため、異国へ行く不安は私たちの比ではないと思います。来日した時は、日本の堅苦しきや日本人のシャイなところに困惑するでしょうし、受け入れる日本人もこの大らかなベトナム人にビックリするだろうと思います。講師となる3法人の職員やこれらに関わる人達が、現地で感じたことをしっかりと伝え、学生達の不利益にならないよう互いの文化のギャップを埋めていきたいと思っています。

また、生活面や認知症の進行を心配していた母については、近隣の方のお力を借り何事もなく過ごせていたようでした。ベトナムから毎日電話をしていたのですが、遠く離れた異国の地がより不安にさせていたようで、いつも私の健康面を心配してくれていました。このプロジェクトにおいても技術移転という大きな目的がありますが、大切な子ども達を異国で預かる責任感をしっかりと持ち、開校式に来られていた親御さん方が安心できるよう第二フェイズを進めて行きたいと思っています。



ハノイのバイク量はすごいです。



日本の交通ルールは通用しません。横断中もバイクが行き交います。



3人乗りは普通、4人乗りもします。  
逆走もあたり前の風景です。



街中の風景  
路上散髪です。



ホアンロン学校  
マンションから車で30分程度か  
かり、タクシーの運転手さんに住  
所を伝えても辿り着かない場所  
です・・・

建物の中には日本の写真が飾ら  
れ、ここで日本の習慣や言葉、専  
門的な技術を学びます。





### 寮の様子

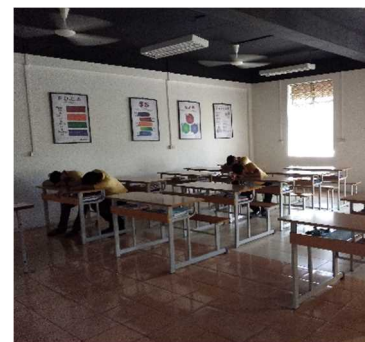
私のクラスの学生は16人1部屋  
と言っていました。

寮生活は厳しく、歯ブラシの向き  
は全員同じ方向を、テーブルの上  
の雑巾の位置は決められていま  
す。



学生たちは、とてもハキハキして  
います。

日本人も見習わなくては！！



学生の昼寝の様子です

さすがに職員室では撮影できま  
せんでした・・・



学生たちによく遊んでもらいま  
した。おいしいものをたくさん食  
べ、日本語で色々な話をして、楽  
しい時間をたくさんもらいま  
した。

幸せな1ヶ月でした